

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・奈良井]

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号

平成31年4月2日
島根県病害虫防除所

タマネギベと病の発生状況について

タマネギベと病の伝染源となる越冬罹病株が県内各地で認められ、発病株率の極めて高いほ場も確認されています。また、本年は従来とはやや様相の異なる越冬罹病株が混在するほ場が多くみられます。この越冬罹病株は、生育の遅れは認められませんが、葉が湾曲し（図1）、病斑上には、従来株同様、多数の胞子が観察されています。今後、発病株率の高いほ場では本病の多発が懸念されます。

現地では発生状況を把握し、越冬罹病株の抜き取り、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

【従来とは異なる越冬罹病株の特徴】

生育の遅れは認められないが、葉が湾曲し、病斑が連続した葉位の葉身上に離れて形成される（図1：左）。

【従来の越冬罹病株の特徴】

葉の光沢がなくなり淡黄緑色になり、生育も遅れ、葉は湾曲する（図1：右）。

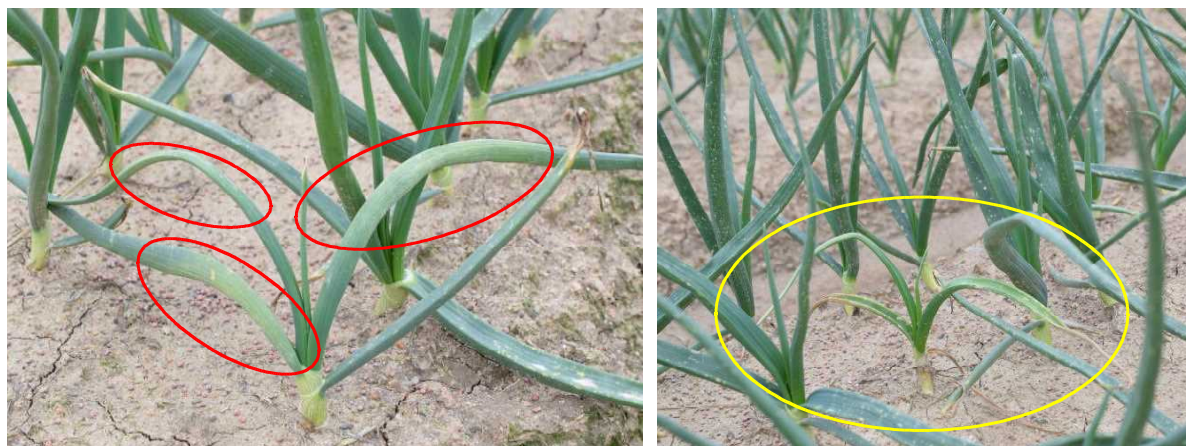


図1 タマネギベと病越冬罹病株（赤枠内が病斑、黄枠内が従来の越冬罹病株）

1. 発生状況と今後の予想

1) 3月下旬の巡回調査では、越年罹病株の発生ほ場率が30.0%（平年29.5%）、1万株当たりの同発病株数は3.6株（平年7.1株）と平年並みであったが（図2）、多発生ほ場も認められた。多発生ほ場及び周辺ほ場では、今後甚大な被害を受ける可能性がある。

2) 中国地方1か月予報（3月30日～4月29日、広島地方气象台3月28日発表）によると向こう1か月の降水量が高い確率が40%、日照時間が少ない確率が40%であるため、本病の発生にやや助長的であると考えられる。

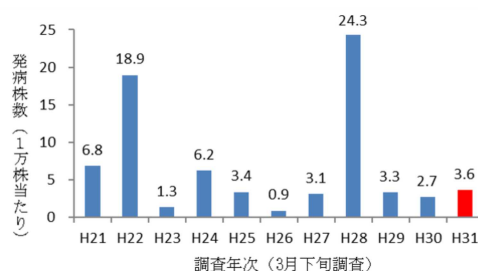


図2 過去10年のタマネギべと病越年罹病株の発生状況

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 越年罹病株は継続的に胞子を形成し、重大な伝染源となるため、抜き取ってほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 越年罹病株及び発病株が認められた場合には、感染拡大防止のため、直ちに薬剤による防除を行う。